

## 徳島県GIGAスクール構想

# 不登校児童生徒等への支援【活用事例集】(案)

### \* ICT環境の活用目的 \*

- ①従来からの不登校児童生徒等への支援のさらなる充実
- ②学校とのつながりの強化
- ③学習意欲の維持・向上

社会的自立

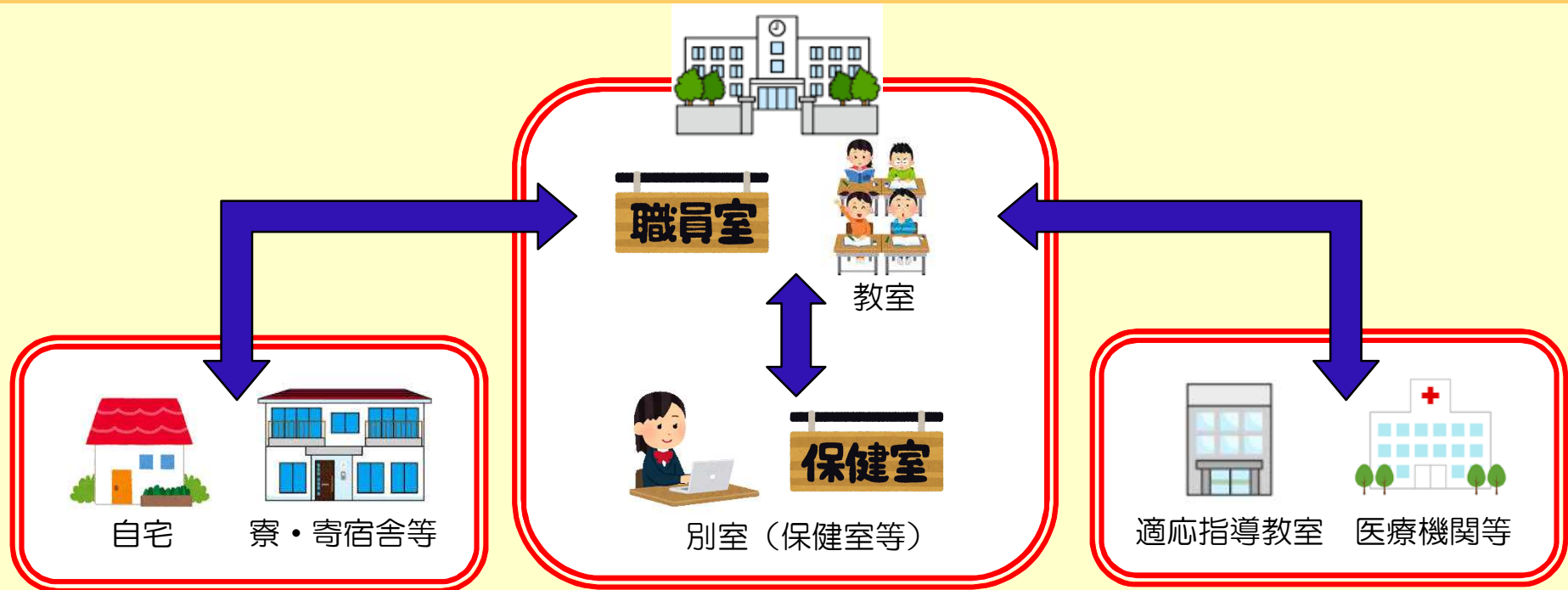
※10月に、県内の全公立学校を対象に行ったアンケート結果とEdTech活用推進事業Ⅱの実践校の取組から、好事例としてまとめたものです。取組は始まったばかりの学校も多いようです。また、校種も様々ですが、今後のそれぞれの学校での不登校児童生徒等への支援のヒントになれば幸いです。

【参照】「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（文部科学省 令和元年10月25日）



徳島県GIGAスクール構想推進本部  
不登校児童生徒の学びの支援検討部会

# GIGAスクール構想（不登校児童生徒等への支援）



## 心のサポート

A コミュニケーションツールとしての活用



B 健康管理ツールとしての活用



## 学びのサポート

D Webドリル教材等の活用



C 教室の様子等の配信



## 【心のサポート】


### A コミュニケーションツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会への参加。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝起きることができない日や参加できない日が多いが、提案に対しては嫌がってはいない。</li> <li>参加を強要せず、気軽に参加を促す。</li> <li>毎日継続することで、心の拠り所の一つになると思う。</li> </ul>	<p>Q1 徳島県GIGAスクール構想「不登校児童生徒の学びの支援検討部会」の、ICT活用に対する考え方は？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの不登校児童生徒の支援の延長線上に、ICT活用がある、という考え方が必要です。</li> <li>ICTは、あくまで一つのツール（道具・手段）です。ICT活用で、子どもたちを引っ張り上げるのではなく、一歩目の段差を小さくすることができるもの、と捉えましょう。</li> <li>便利でないと、続きません。「<u>持続可能な支援</u>」になるような方法で活用していきましょう。</li> </ul> <p>①できることからやってみる。 ②一人で抱え込まない。 ③他の先生方との<u>情報の共有</u>、<u>成功例を学校全体で蓄積</u>。 ④日常的なICTの活用機会を増やすことで、活用のハードルを下げる。 etc</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会、帰りの会へ参加。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該生徒の背と同じくらいの高さに調整したスタンドにタブレットを装着し、いつもの立ち位置に設置。</li> <li>始業前から設置し、級友とコミュニケーションを図る時間を設けている。</li> <li>教室移動時は、生徒が声をかけながらスタンドを運ぶ。</li> </ul>	
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と朝の挨拶や会話などのやりとり。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話と違い、顔を見てのやりとりで、当該児童の様子が伝わりやすい。</li> <li>職員室でつないでいると、当該児童に関係している先生方もタイミングが合えば顔を出してくれるので、児童も色々な先生が自分のことを気にかけてくれていると感じている。</li> <li>当該児童の様子を画面越しでも見られるので、他の教員とも情報共有しやすい。</li> </ul>	

\* …それぞれの学校で活用したツール（具体的なツール名は9ページに掲載）

【 】 …それぞれの学校で活用した場所。【自宅】【別室】【保健室】【適応指導教室】【各教室】

【A】 コミュニケーションツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日1回のメッセージのやりとり。(時間割の確認や取り組んだ課題の確認等)【自宅】</li> </ul> <p>*コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校へ気持ちが向かない時でも、タブレットでなら話ができる。</li> <li>毎日つながっているため、級友とも会話ができ楽しそう。</li> </ul>	<p>Q2 児童生徒本人や保護者が、積極的な支援を望んでいる場合とそうではない場合があるのでは？</p> <p style="text-align: center;">⇓</p>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事(始業式や終業式)、学級の生徒との交流等。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安傾向の強い生徒のため、自宅という安心できる空間で級友と関わることは、大変有効である。</li> <li>生徒の生き生きとした姿を見て、保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まずは、児童生徒や保護者の意思確認が必須です。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業式の校長先生のお話や文化祭、キャリア教育出前授業などをライブ配信。【適応指導教室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該生徒からは、楽しかったという感想を聞くことができた。また、他の生徒たちと一緒に参加できたという達成感も感じられた。</li> <li>他の生徒に会うことが苦手な生徒にとっては、有効な手段だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の状況によっては、ICTを活用した支援が有効な場合とそうでない場合があります。まずは、児童生徒一人一人について、しっかりとした<u>アセスメント</u>(見立て)が必要です。</li> </ul> <p>※アセスメント… 当該児童生徒の情報の収集・分析を行い、児童生徒の状況を把握すること。</p>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業時刻から下校まで、教室の様子を配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>級友が、画面の向こうにいる当該児童に話しかけたり、できた作品を見せたりして積極的に関わろうとしている。</li> <li>当該児童のカメラやマイクはOFFにしているため、一方向の配信であるが、当該児童は、毎日の配信を楽しみにしている。</li> <li>級友たちも、配信が当たり前の日常になっており、気軽に挨拶をしたり話しかけたりしている。</li> <li>心のエネルギーが上がってきており、「学校」に少しずつ興味を持ち始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合によっては、スクールカウンセラーを含めた<u>ケース会議</u>を開くことも有効です。</li> <li>支援の開始時期やその内容について、積極的な情報の収集と分析が必要だ、と回答してくれた学校もありました。</li> </ul> <p>・「段階別 不登校対応ハンドブック(改訂版)」を参考にしてください。</p> <div style="text-align: right;">  </div>

【A】 コミュニケーションツールとしての活用


	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭の生中継や学級旗紹介・パフォーマンスのオンデマンド配信。【適応指導教室】</li> </ul> *Web会議システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭の様子を見られて大変好評だった。</li> </ul>	<p>Q3 毎日、接続する必要がある？ ↓</p> <p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の状態によりますが、家庭訪問とうまく組み合わせることで、より支援の幅が広がります。</li> <li>週1回程度の頻度でやりとりをしている学校もあります。</li> </ul> </p> <p>Q4 顔出しを嫌がる児童生徒に対しては？ ↓</p> <p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>本人の希望で、<u>カメラOFFでも良い</u>と思います。</li> <li>当該児童生徒の状態に合わせる必要があります。</li> <li>カメラOFFでも、直接話ができること、つながることが大切です。</li> <li>不登校の児童生徒にとっては、顔を出さないことで、ハードルが下がります。</li> </ul> </p>
⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観や進学説明会を配信。【自宅】</li> </ul> *Web会議システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>常にカメラとマイクはOFFで、様子は分からなかったが、積極的に活用していると保護者から聞いている。</li> </ul>	
⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へのお知らせ（遠足等）の配信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>級友と同じ日に届けることができる。</li> </ul>	
⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割等の予定を配信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間の<u>見通しを立てる</u>ことができる。</li> </ul>	
⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日のスケジュールを記入・送信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日1日の生活を振り返り、記入する。</li> <li>自分の生活を管理することができる。</li> <li>担任とのやりとりを通して、生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	
⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子を写真とコメントで報告。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での生活の様子が伝わる。</li> <li>会話のきっかけになる。</li> <li>学級とつながる手段の一つとして使えることに希望をもっている。</li> </ul>	
⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活記録を記入・提出。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任とのやりとりを通して、生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	

㊦ 健康管理ツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝起きられるよう、児童用タブレット端末のアラームを設定。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	Q5 家庭訪問の方が、メリットがあるのでは？ ↓
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ通話で児童の状況や様子を確認。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童本人と直接コミュニケーションをとることができるので、当該児童の言いたいことや気持ちが教員に伝わりやすい。</li> <li>時間や手間をかけずにスピード感をもって次の対応につなぐことができる。</li> <li>心身の状態の把握などができる。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問することには、大きなメリットがありますが、行くことができない日もあります。そういう時にタブレットを活用する、という活用の仕方もあります。</li> <li><u>家庭訪問とタブレットを組み合わせることで、支援できることが増えます。</u></li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は登校後、健康調査票に体温や健康状態についてタブレットで入力・送信。【各教室】</li> <li>不登校等で欠席している生徒も、自宅からデータを入力・送信。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツールのアンケート機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、健康調査が送信されており、家庭でも早起きをして健康的な生活を送ることができる。</li> <li>不安なことや心配なことなどの書き込みがあれば、担任・養護教諭等がすぐに連携しながら対応できる。</li> <li>場合によっては、スクールカウンセラーと連携して対応にあたることことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該児童生徒の状況によっては、タブレット越しという距離感の方が負担感が少ないと感じる場合もあります。</li> </ul> Q6 児童生徒だけでは接続できない（保護者不在時等）場合は？ ↓
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、体調確認票の記入・送信。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の合間に確認できるので、空き時間での対応ができる。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問時等に、接続の仕方を説明する時間を作ってみましょう。それでも難しい場合は、無理せず、接続できる時（保護者の支援が得られる時等）に接続することから始めましょう。</li> </ul>

## 【学びのサポート】

### ㉓ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を実施。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートを取ったり，チャットやスタンプなどで担任の問いかけに反応したりしている。</li> <li>当該児童は，積極的に授業に参加。</li> <li>級友らも一緒に授業を受けられることを喜んでいる。</li> <li>休み時間には，級友がホスト端末の近くに集まり，コミュニケーションを図っている。</li> </ul>	<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身の状態や不登校の状況等によって，タブレット端末を利用しにくい場合もある？</li> <li>不登校の初期段階では，タブレットでの家庭学習に満足して登校しなくても大丈夫だと思うのでは？</li> </ul> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の状況に合わせて，利用の仕方を変更する必要があります。</li> <li>まずは，当該児童について，しっかりとした<u>アセスメント</u>（見立て）が必要です。</li> </ul> <p>※アセスメント… 当該児童生徒の情報の収集・分析を行い，児童生徒の状況を把握すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場合によっては，スクールカウンセラーを含めた<u>ケース会議</u>を開きましょう。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を配信。</li> <li>黒板が映るように固定カメラ(タブレット)を設定し，1日中配信。(昼食時は切る。)</li> <li>学習支援システムを活用し，板書内容やプリント等の配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通の授業で，Web会議システムを日常的に使用することで，欠席者が家庭や別室で授業に参加しても，生徒たちは違和感なく授業を受けることができる。</li> <li>教室にいる生徒も全員Web会議システムに接続することで，グループ討議も可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「段階別 不登校対応ハンドブック（改訂版）」を参考にしてください。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を実施。</li> <li>他の教員が当該児童と同じ部屋でサポートを行う。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートがあることでストレスが減り，登校できるようになってきた。</li> <li>本人，保護者ともにとっても良い反応。</li> <li>様々な研修会や講習会で，この事例の紹介をしている。</li> </ul>	

□ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級とつなぎ、授業を実施。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段顔を合わせない級友と一緒に授業を受けることができ、楽しそうに授業に参加できた。</li> <li>• 級友が、別室を訪れたり、数回だが、実際に教室に入って級友と一緒に授業を受けたりすることができた。</li> </ul>	<p>Q2 黒板に書いてある文字が見にくいと言われることへの対応は？</p> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業の様子、板書の内容について、Web会議システムでの配信と学習支援システムでの授業内容の配信を組み合わせることで、黒板の見えにくさは解消します。</li> <li>• 板書内容については、毎時間の板書を撮影し、コミュニケーションツールにアップし、児童生徒自身が自由に見ることができるようにしている学校もあります。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リモートでの授業参加。</li> <li>• 児童側のカメラとマイクはOFFにし、支援者がチャットで関わる。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム *学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「教室で授業を受けてもついていける、分かる」素地を培うことができている。</li> <li>• 徐々に力と自信をつけて、教室で他の児童と一緒に活動する時間が増加。</li> <li>• 授業を受けるだけでなく、学級の雰囲気も味わわせるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 板書の撮影等を、教科担当の児童生徒が担うことで、<u>教員の負担軽減</u>や<u>児童生徒の自己有用感</u>にもつながっているケースもあります。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保健室から授業の様子が見られるようにし、保健室登校の児童が授業に参加。【保健室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業に参加でき、学級の様子がわかるので、児童に安心感が生まれたようだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• きれいな映像を配信することを気にしすぎないようにしましょう。（自宅での学習が快適になりすぎないことが、登校につながることもあります。）</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 別室に登校している生徒に対し、数学担当がタブレット端末を使って個別に授業をしている。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数学では、関数や図形など移動するものは活用しやすい。また、ポイントのところを拡大できるので、要点を絞りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級の雰囲気を感じてもらうことが目的であれば、当該児童生徒の座席にタブレット端末を置き、自分の席で黒板を見ている状態に近づける、ということも考えられます。</li> </ul>
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 板書を写真に撮って保存。いつでも見ることができるようになっている。【自宅】</li> </ul> <p>*学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 欠席中に遅れている部分を知ること、取り戻しができると安心感を与えている。</li> </ul>	



㉒ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の動画や使用したスライド資料等を配信。【自宅】</li> </ul> <p>*学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業以外での、学習面の支援があることに当該生徒も保護者も感謝していた。</li> </ul>	<p>Q3 プラスαの教材づくりは負担が大きい？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>共有フォルダの作成</u>、ICTを活用した教材等を一元管理することで、教員の負担軽減を図っている学校もあります。</li> <li>まずは、配信する教科を絞ったり、1週間の中で日数を絞ったりしている学校もあります。</li> <li>放課後等に個別指導をする場合も、曜日を限定したり、1回の時間を30分～1時間程度に抑えている学校もあります。</li> </ul>
㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の板書の写真をアップし、日付ごとに分けて保存。</li> <li>板書の写真をノートに書いたり、問題集の当該ページを解いたりして、自分なりに教科書を進め、登校できたときにチェック。【自宅】</li> </ul> <p>*コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間分の板書の写真を撮影し、ファイル名を変更し、コミュニケーションツールにアップするという作業に時間が取られ、忘れることも多かった。</li> <li>現在は教科の担当児童が撮影からアップまでできるようになったため負担は軽減できた。</li> </ul>	<p>Q4 級友の肖像権の問題は？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、タブレットを教室の前の方に置き、黒板と授業者だけが映るように設定します。（他の児童生徒が映らないように設定。）</li> </ul>
㉓	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の様子を録画し、後で視聴できるように<u>オンデマンド配信</u>。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝から起きられない生徒でも、体調が良い時等に視聴できた。</li> <li>コミュニケーションツールを活用し、パスワードをかけてアップする。</li> </ul>	

※オンデマンド配信の場合は、著作権に十分注意してください！！

※オンデマンド配信・・・ライブ配信の録画やあらかじめ制作した動画を配信サーバーにアップロードし、視聴者の好きなタイミングで見られるように配信すること。

## □ Webドリル教材等の活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>基礎・基本の定着</u>。</li> <li>ドリルの進み具合をタブレットで確認することで、児童の状況を把握している。</li> <li>タブレットを利用したドリル学習には、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>Q5 Webドリル教材では、問題が解けているかのチェックや苦手分野の把握などができないのでは？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A Webドリル教材では、児童生徒の実態に応じて課題を設定できたり、進捗状況を教員側が確認する機能があったりするので、使い次第で、児童生徒のつまずきのフォローアップにつながります。</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の使用について当該児童と話すことが多くなり、コミュニケーションが増えた。</li> <li>学校のことや学習のことについて話すきっかけとなり、当該児童も保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>Q6 ICTを活用することで、ICTに頼りすぎて学校との心の距離が離れないようにするには？</p> <p>・「このままりモートでいい」と思われたい手立ては？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A 「ICTを活用しながら、担任が定期的に家庭訪問して、生活や学習状況を確認するとともに、スクールカウンセラーと連携して、社会的な自立を目指したきめ細やかな支援ができるよう努めています。」と回答してくれた学校がありました。</p>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【別室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル学習は、紙と鉛筆を使うよりも答えやすく、学習をすることへの抵抗が軽減された。</li> <li>当該児童の好きな活動を取り入れることで、少しでも登校のきっかけになれば、と考えている。</li> </ul>	
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援アプリを活用した、継続的な学びの支援。【自宅】【適応指導教室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを貸与し、個に応じた学習を不登校生徒に提供できることは、<u>教職員</u>の大きな負担軽減となっている。</li> </ul>	

## D Webドリル教材等の活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。毎週末の宿題の配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習に取り組めるようになってきた児童がいる。</li> <li>学習の機会が増え、充実感を感じている児童もいる。</li> <li>前学年の学習もできるため、保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>Q7 徳島県GIGAスクールサポートサイト」にはどんな情報を掲載していますか？ ↓</p> <p>A • 必要な情報等を随時掲載しています。ご活用ください。</p> <p>①授業実践動画 ②指導事例・指導案 ③アプリの活用法 ④持ち帰り関連 ⑤各種様式 等</p>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】【別室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校できた日、学習内容が本人のレベルに合っていない授業の時等にタブレットによる学習に切り替えて、Webドリル教材を利用し、本人の進度に合った学習を個別に実施。</li> <li>学習の遅れが登校しぶりの大きな要因となっている現時点では、本人のペースに合った学習を提供できるタブレット等の活用は重要である。</li> </ul>	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習動画を活用した学習。【自宅】【別室】</li> </ul> <p>*<u>学習動画</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの動画は短く、短時間で興味をひく内容なので、学習意欲の維持につながられた。</li> </ul>	

### 【参照】

※Web会議システム…Zoom, Microsoft Teams, Google meet, etc  
 ※コミュニケーションツール…Microsoft Teams, Microsoft Forms, FaceTime, Classi, MetaMoji Classroom, etc  
 ※学習支援システム…MetaMoji Classroom, ロイロノート, Google classroom, Classi, etc  
 (授業支援システム)  
 ※Webドリル教材…学びポケット, ミライシード, スタディサプリ, ラインズ, スマイルドリル, ドリルパーク, キュビナ, すららドリル, ラインズeライブラリー, Classi, etc  
 ※学習動画…徳島県教育委員会 家庭学習応援サイト「とくしま まなびのサポート」, 「とくしま こころのサポート」, 徳島県GIGAスクールサポートサイト, NHK for school, etc